

水がつなぐ人とまち



背景 ～都市に何処に存在する水路～

まちなかには暗渠化した水路や側溝など生活とは直接関係のないところに何処なく水路が存在している。
 身近にあったはずの水は都市の機能性を求められた結果、暗渠化し人々との水の距離は遠くなっている。



高瀬川周辺のリサーチ

暗渠化した水路

対象敷地「大阪府茨木市」～失われた水との共生～

高瀬川と宮元町

宮元町には、高瀬川が流れている。昔は川の水が直接飲めるほど水質が良く川の水を直接生活用水として使用していた。50年前に高瀬川を暗渠にする計画もあった。



独自の植栽文化

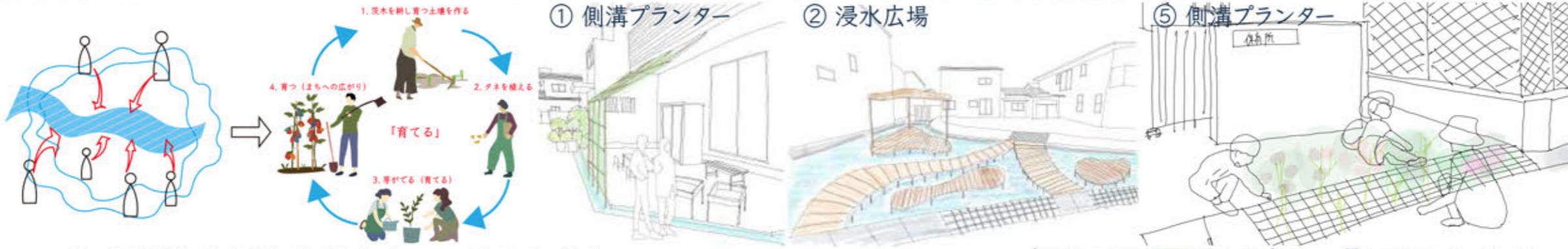
高瀬川が再整備された頃から住人が家の前や市が管理する川のへり、空き地などに自分で植栽していることが見受けられ、高瀬川を活用した独自の植栽文化を築いている。

私たちの生活には水が必要不可欠である。しかし、水は雨へと姿を変えることで時に私たちの生活を脅かすこともある。昨今では気候変動による水害の激甚化によりその被害は絶え間なく続いている。そんな水と共生することで日常と非日常をつなぐことができるのか。

0. 人・まちを育てる水路

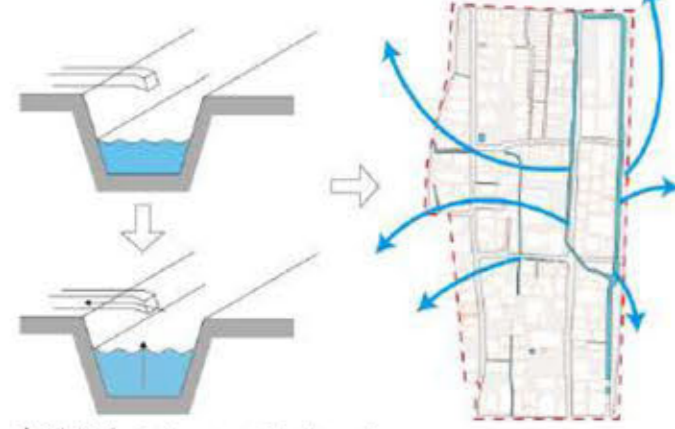
宮元町の失われた水との共生を現代に取り戻すことによってまちなかに水を循環させる。

水やりをして植物を育てるように今は使われていない水を循環させることで人・まちを育てるコンヴィヴィアリティなまちを目指す。

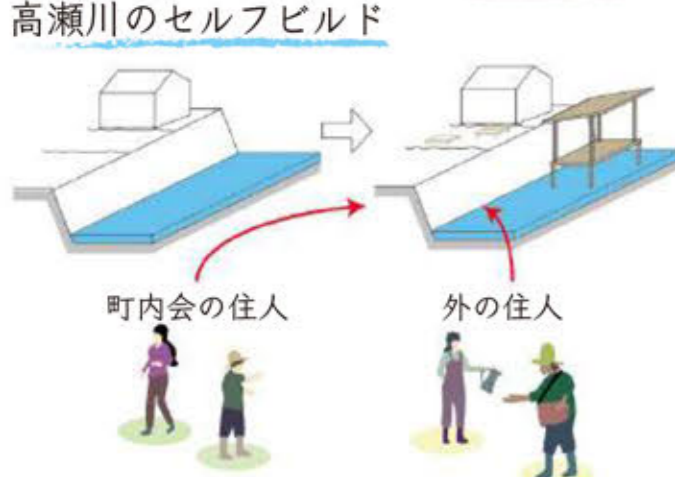


1. 失われた水との共生を再生する

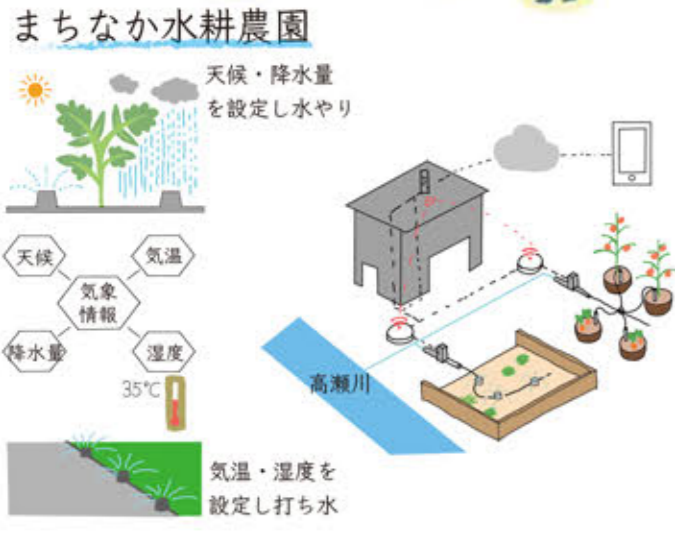
高瀬川を基点とした水ネットワークの構築



高瀬川の水位を調節できる特徴を活かして宮元町の側溝や暗渠に水を行き渡らせることで水のネットワークを構築する。

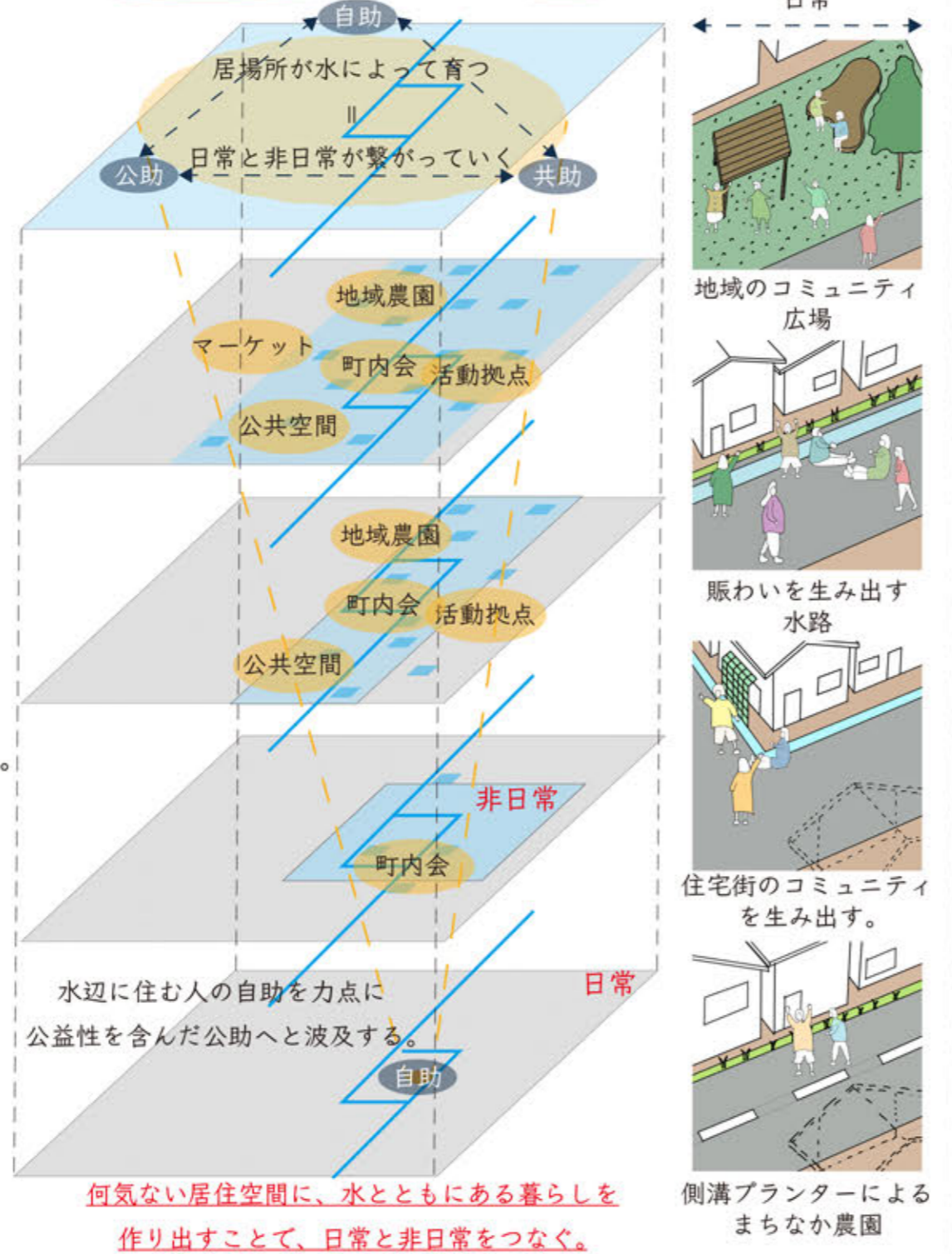


行き渡った水辺を活かしてその周辺に住民が居場所を作っていく。その場を使いこなすことで、縦割りの町内コミュニティではなく、誰もが主役になるまちを作る。



水量、使用頻度、気象情報などをセンシングし、水の効率的な管理と再利用を行う。誰もが情報を駆使して水辺空間を創出することができ、離れた場所からも水を操作できる。

2. 日常と非日常を繋ぐインフラのあり方



何気ない居住空間に、水とともにある暮らしを作り出すことで、日常と非日常をつなぐ。

日常



非日常



④ ファニチャーによって居場所をつくる



③ 水路によって場所をつなぐ

